

平成28年度 第6回江別市行政評価外部評価委員会 会議録（要点筆記）

日 時：平成28年11月8日（火）9:30～11:00

場 所：江別市民会館 21号室

出席委員：井上宏子委員長、千里政文副委員長、小原克嘉委員、菅原涼子委員、
小野寺さゆみ委員、中井和夫委員（計6名）

欠席委員：武岡明子委員、山下善隆委員（計2名）

事務局：企画政策部三上次長、政策推進課中島参事、左川主任

会議概要

1 開会

2 議事

（1）平成28年度行政評価外部評価結果（案）について

○井上委員長

資料1平成28年度行政評価外部評価結果（案）について、事務局から各委員へは事前に資料送付をしているため既にお目通しされていると思う。

これまでの5回の委員会にて19事業へ書面審査を実施した上で書面照会とヒアリング照会を実施し、その結果が資料1にまとめられている。

これについて、今年度の委員会の最終的な結果になるため、事務局からご説明いただき、お気づきの点等があれば確認をいただきたいと思う。

それでは、事務局から説明願う。

【事務局から議事（1）を説明】

資料1 平成28年度行政評価外部評価結果（P1～P8）

○井上委員長

外部評価結果6ページまでは適切に整理がされている。

委員会において意見を出す部分については7ページの下部から8ページにかけて、戦略2全体部分への指摘事項を記載している。この改善を図るべき内容については、昨年度よりも具体的な表記をさせていただいた。各委員の意見が反映されるような記載をしたがいかがか。この事業全体の指摘事項を、市の担当者などに意識してもらおうという意図から、より具体的な記入例も記載したところである。

また、外部評価結果の9ページから、個別の各事業の外部評価結果をまとめている。戦略2は19事業と事業数が多いことから、まず前半の10事業の評価結果について事務局から説明いただきたい。

【事務局から議事（1）を説明】

資料1 平成28年度行政評価外部評価結果（P9～P19）

○井上委員長

事務局から前半10事業について、説明をいただいた。

委員会の意見がしっかりとまとめられていると思う。そして、「意見・提言」の欄については、委員会が評価表を見たというだけにならぬよう、今後の市の取組に向けて意見を出していきたいと考え記載を加えている。

各委員において、何かお気づきの点等あれば発言いただきたい。

【各委員意見なし】

○井上委員長

15ページ「総合特区推進事業」の「意見・提言」欄について、総合特区自体が市民にとって馴染みがないと表現されているが、この表現は「馴染み」ではなく、もう少し違う表現に変えていただきたいと感じていた。例えば、身近に感じられないなどである。内容が分かっている人には馴染みで良いと思う。その言葉だけは見直していただけたらという気持ちがある。

各委員からご意見があれば発言いただきたい。

【各委員意見なし】

○井上委員長

9ページ目の「経済活動広報事業」の「フリーペーパー」の記載について、この事業にも「意見・提言」を記載している。これはいかがであるか。

○中井委員

異議なし。

○井上委員長

10ページ目の「商工業活性化事業」にも、「意見・提言」において、引き続き「成果指標」の適切な指標設定を検討するように記載を加えている。これについてはいかがか。

【各委員意見なし】

○井上委員長

11ページ目の「江別経済ネットワーク事業」について、この事業においては「意見・提言」を記載していない。各委員から何か記載すべきという意見はないだろうか。

【各委員意見なし】

○井上委員長

次は12ページ目の「食を軸とした観光誘客・地場産品販路拡大事業」である。

この事業は、ヒアリング調査において、市でコントロールしにくい事業であるという説明があったが、この事業も「意見・提言」にて具体的に示す表現が見つからず記載がないいかがであるか。

○中井委員

「指標設定の妥当性」の指摘事項はなしとして良いが、「意見・提言」がないということはいかがなものか。平成27年度事業費が対前年度の10倍近い増額がされているが、この事業費増額の理由が市民には見えてこないの、もう少し分かりやすい説明をすべきである。

特に、「事業を取り巻く環境変化」の記載欄については、より分かりやすい市民説明をすべきだということをこれまでの委員会で申し上げたが、いかがであるか。

○事務局

この事業の事業費については、国の政策、交付金によって大きく変わっており、このような事業はこの事業に限らず、他にも複数の事例がある。

先ほどの8ページの戦略2全体の外部評価結果において、具体例として改善に向けた記載をさせていただいた。

全体の中の指摘事項であったことから個別事業の「意見・提言」ではなく、8ページの戦略2全体の外部評価結果に記載をした。

○井上委員長

事務局からの説明のとおり、全体をとおして「事業を取り巻く環境変化」への記載をしてほしいということを全体の指摘事項としたことで、このとおりまとめさせていただいた。

○中井委員

担当課は、個別事業の指摘事項ばかりで、前段の全体の指摘事項など見ないと思う。

現場の担当課は、実際に業務を進めている立場から、個別の評価結果しか見ない。戦略2全体の部分にて記載があるのであれば、そのように直接的な記載をするなどして示すべきである。

○井上委員長

しつこくならない程度に改善を促していく。

○中井委員長

具体例も、これが具体例に見えない。だから、市民分かりしない。

○井上委員長

表現は少し考えたい。最終案は任せていただいてもよろしいか。

○中井委員

お任せする。

○井上委員長

それでは、13ページ目の「野幌駅周辺商店街活性化促進事業」についてはいかがか。

【各委員意見なし】

○井上委員長

14ページ目の「商店街参入促進事業」の「意見・提言」にて、具体的に強めの記載をしている。これについてはいかがであるか。

【各委員意見なし】

○井上委員長

次の15ページ目の「総合特区推進事業」について冒頭にも意見を出したが、個人的には身近に感じられない表現を変えた方がいいと思うが、委員の皆さんは何か思うことはないだろうか。

ここでは、現状のとおり馴染みのない事業と考えてよろしいか。

○中井委員

「意見・提言」について、委員会の言いたいことを非常によくまとめていると思う。

○井上委員長

了。

では、16ページ目の「企業誘致推進事業」について、この事業も「意見・提言」を記載している。可能な範囲での記載とまとめているが、これはヒアリング照会の結果を踏まえてこのような表現にしている。

【各委員意見なし】

○井上委員長

17ページ目の「企業立地等補助金」については、「意見・提言」は記載していないが、指摘事項の記載を含め、この事業はこのようなまとめでよろしいか。

○中井委員

17ページ目の「企業立地等補助金」について、私だけだったかもしれないが「総合特区推進事業」なども関係があると発言したと思う。市は多額の補助金を支出している以上、市民に対して、もう少し市民に分かるように説明をすべきである。

これについては、指摘事項としているのであれば「意見・提言」として記載しなくてもよいということか。「意見・提言」が無いということには納得ができない。

この内容についても、8ページ目の外部評価結果に含まれているとしても個別の内容も示していきたい。

○井上委員長

こちらの戦略2を総括した外部評価結果のような記載よりも、補助金そのものを意図した個別事業への意見を出しても良いのではないかという意見である。ただ、その場合、その意見の記載内容をどのようにするかということになる。

○中井委員

この事業は特に補助金額が大きい。

担当課には、多額の補助金を出しているという認識を持っていただけるような指摘事項を加えたい。そして、補助金の説明を市民にも分かるようにしていただきたい。

○井上委員長

今の中井委員の意見は、この事業の5つ目の指摘事項の事業費の推移について、事業費が増額され続けている理由が補助制度の拡充であったとするならば、これを「事業を取り巻く環境変化」において、内容が分かるように記載すること、という内容を加えるということが良いか。

○中井委員

単なる指摘事項ということではなく、「意見・提言」として伝えるべきではないか。

○事務局

分かりやすい記載をするようにとヒアリング実施時に指摘されていたことから、このような指摘内容として設定した。評価表を分かりやすく記載することは、市としても当然である

ことから、委員会において指摘をすることで担当課が内容の改善を図り、分かりやすい評価表になっていくものとする。

○井上委員長

昨年度の外部評価対象として委員会から指摘を受けた評価表の内容は、今年度の評価表において、委員会からの指摘事項が改善され、内容が丁寧に説明されるようになった。

中井委員の意見も理解できるが、どの程度の指摘事項によって内部評価が改善されるかも含めて、あえて「意見・提言」としていなかったが、思いが強く残るようであれば、この表現を少し考えなければならない。

他の委員の皆さんの意見はいかがであるか。

今後の外部評価においても補助金事業は出てくると思うが、中井委員としては、「意見・提言」を記載するならば、どのような表現をすればよろしいか。

○中井委員

多額の補助金であり、「環境変化」を的確に捉えて、市民がわかるような説明がされるよう記載をすべきと思う。まず、多額の補助金であることを前提にした意見を記載したい。

○井上委員長

金額が非常に多額であるから、責任説明が重いとして捉えればよろしいか。

○中井委員

そのとおりである。

○井上委員長

ほかの意見のご意見はいかがか。

○千里副委員長

担当課は、委員会からの指摘をまったく無視しているということはないと思う。

私は、逆にあまり深く記載しなくても担当課には理解してもらえると好意的に考えていた。

もし、そこに記載しなければ担当課が見ないということであれば、当然、内容を加える必要があると考えるが、私は担当課が適切に対応してくれると思っている。

○井上委員長

ほかの委員の意見はいかがであるか。

○小原委員

このままでもよろしいのではないか。

○井上委員長

中井委員はいかがか。やはり何か引っかかるか。

○中井委員

個人的には引っかかるが、ほかの委員の皆さんに疑問がないのならば仕方ない。

私個人としては、「事業を取り巻く環境変化」も踏まえて市民にとって理解しやすい内容ではないと思うところが2点ある。

1点目は多額な補助金であること。2点目は、「事業を取り巻く環境変化」を正しく捉えて表現してないという部分である。

しかし、ほかの委員の皆さんがそう感じないのならば私が間違いかもしれない。

○井上委員長

間違えということではなく、「意見・提言」に内容を記載するときに「多額」という表現は適当ではないと考える。補助金の必要性が市民の理解が図られるような記載をするよう求めることは必要であっても、多額か少額かは関係がないように思える。記載は前段の部分のみでよろしいのではないか。

○中井委員

了。表現については、井上委員長に一任する。

○井上委員長

今の時世は、色々なところでお金の問題や予算の問題が国中で指摘されているため、市民理解が図られるような記載を促す内容としたい。

○千里副委員長

今の議論について、市が支出する補助金は税金から支出される補助金である。

少額だろうが多額であろうが、1円であっても必要なことは厳守しなければならない。

○井上委員長

そのとおりである。だからこそ「多額」という言葉は入れずに対応したい。

○千里副委員長

中井委員のご意見のとおり、多額であるにもかかわらず、という気持ちは市民として理解できるが、1円であっても補助金であるのだから、金額の多寡にもかかわらず責任を果たさなければならない。

○井上委員長

18ページの「都市と農村交流事業」であるが、これは「意見・提言」の記載はないがよろしいか。

【各委員意見なし】

○井上委員長

それでは、19ページの「江別産農畜産物ブランディング事業」以降の事業について、事務局から説明願いたい。

【事務局から議事（1）を説明】

資料1 平成28年度行政評価外部評価結果（P19～P66）

○井上委員長

19ページの「江別産農畜産物ブランディング事業」の「意見・提言」については、今後の事業の進め方を検討されたいという内容である。これについてはよろしいか。

○中井委員

19ページの評価表への記載事項への指摘の3点目の書き方について、「分かるよう」と表現が重なっているので、整理をした方が良い。

○井上委員長

文書の訂正である。事務局に訂正願いたい。

では、20ページの「働きたい女性のための就職支援事業」について、「意見・提言」を記載しているが、より適切な「成果指標」の設定を求めている。これについてはよろしいか。

【各委員意見なし】

○井上委員長

21ページの「障がい者就労相談支援事業（緊急経済対策）」であるが、この事業は緊急経済対策の事業であり、「意見・提言」においても、障がい者の社会的自立に向けての取組を縦割りではなくて横軸で進めていただきたい旨を示しているがいかがか。

【各委員意見なし】

○井上委員長

次は22ページの「有給インターンシップ等地域就職支援事業」について、この事業は25ページの「市内大学等インターンシップ事業」と両事業ともに「インターンシップ」と重なる部分があるため、「意見・提言」においては、25ページの「市内大学等インターンシップ事業」の欄に、整理をさせていただいた。

そのため、22ページの「有給インターンシップ等地域就職支援事業」は「意見・提言」がなしとなっているがよろしいか。

【各委員意見なし】

○井上委員長

23ページの「高校生就職支援事業」については、事務局からの説明のとおり、「指標設定の妥当性」及び「意見・提言」の指摘はなしとなっているが、これは担当課の理解が進んだものとして考えているがよろしいか。

【各委員意見なし】

○井上委員長

続いて、24ページ「介護人材育成事業」について、この事業は、非常に具体的なところを求めていく内容を、「意見・提言」に加えさせていただいた。

また、25ページの「市内大学等インターンシップ事業」は、先ほどの説明のとおり、インターンシップ事業に係る内容の事業の統合を検討するようという意見を出させていただいたがよろしいか。

○中井委員

意見を出した私としては、「意見・提言」について、意図をよく捉えて記載をいただいたと感じている。事務局の整理に感謝したい。

○井上委員長

私も、昨年度から外部評価を実施し、「評価表の記載事項」や「指標設定の妥当性」に対して指摘をするだけでなく、「意見・提言」の空欄を少なくしていきたいという思いがあった。今年度の外部評価結果については、昨年度よりも記載を増やしている。記載が増えることにより、担当の課も内容を理解して次へ生かしていると考えます。

26ページの「地域発見魅力発信事業」は「意見・提言」を記載をしていないが、これについて各委員から補足などはあるか。

○中井委員

他の事業とも関連するところであるが、「事業を取り巻く環境変化」に何にも書かれていないという意見が、委員の皆さんからもあったと思う。

○井上委員長

これについては、昨年度と今年度の外部評価結果の違いを見ていただきたい。

昨年度は、委員会が外部評価対象の戦略構成事業全体をどのように見ているかを全体の指摘として記載すべきであったが少し足りていなかった。今年度については、8ページにこのような内容をまとめて、具体例まで示して記載を加えている。

委員会としても、担当課には確実にこのページを確認いただき、内容を理解していただきたいと考え、戦略2の全体の総括をまとめさせていただいた。

次年度の「事業を取り巻く環境変化」の記載について、必要な内容を整理していただけるはずである。

○中井委員

ほかの事業にも関連するが、「事業を取り巻く環境変化」について、やはり「意見・提言」へも同様に何か記載しなければ、実務担当者は絶対に外部評価結果を読まないと思う。

○井上委員長

今年度の外部評価対象は19事業であるが、市の事業全体としてはもっと多くの事業がある。これらの事業は、その数ある事業の中から外部評価のターゲットになった事業である。ターゲットになっているという意識は担当課、実務担当者はしっかり持っていると思う。

私は物事を厳しく見る性格であるが、昨年度に外部評価を実施して指摘事項を示した戦略3の構成事業の今年度の事務事業評価表を確認したときに見直しされていると感じた。これが積み重ねだと思う。

もちろん、事務局が事務事業評価表の全体をまとめているのだから、担当課へはさらなる指摘をしていくと思うので、それに期待を込めたい。

来年度の外部評価が最後になることから、来年度に戦略2構成事業の評価表の改善状況を確認した際に駄目だと感じたなら、その部分を細かく追求しても良いと考えている。

○中井委員

全体議論の具体例のところ、皆さんの意見を伺ってみると何かあると思う。

○井上委員長

この外部評価結果は公文書として残る。

全体の意見をまとめて形として残すことが、正当な残し方と思う。委員会として、全事業の外部評価結果をまとめた結果、このような3点が改善点として挙げられたということである。

市の幹部の方々は、個々の細かい部分を確認するわけではないと思うので、全体の指摘事項を具体的に示す方が効果的であると考え、具体例を挙げることにした。ここまで具体例を挙げた以上、行政職員として曖昧にはできないはずである。プロフェッショナルとしては、外部の人間から指摘されたわけだから、内部評価はもっとシビアになっていくはずである。

○事務局

今、中井委員からご指摘いただいたとおり、先ほどの「事業を取り巻く環境変化」の空欄については、複数の委員からご意見をいただいているため、次の事務事業評価表の作成時において、必ず記載が行われるように周知していきたい。また、事業費の大幅に増減などについても記載がされるよう重ねて周知を徹底したいと考えている。

○中井委員

了。

○井上委員長

この委員会の委員としての役割は、事務事業評価表に委員会で定めた外部評価の視点に基づきチェックを行い、市、担当課より前向きに動いてもらうことである。

27ページの「観光協会補助金」に対しても、「意見・提言」において非常に具体的な記載をさせていただいた。

今年度の個別事業の外部評価結果については、「意見・提言」に力を入れさせていただいている。もちろん「意見・提言」なしの事業もあるが、そのような事業は、ヒアリングや書面照会などから、妥当と考えられた結果である。

以上をもって、戦略2の全19事業について、すべてご確認をいただいたが、今一度、訂正すべき点などがあると思う。

本日の第6回委員会においては、2名の委員の都合が悪く欠席となったが、皆さんの意見を基に、外部評価結果を事務局にいただき、修正箇所を私と千里副委員長にて最終確認をさせていただきたい。これについて、ご一任いただければ有り難い。

【各委員異議なし】

修正後の外部評価結果については、事務局から各委員の皆様へ送付をお願いしたい。

○事務局

了。

(2) 平成27年度行政評価外部評価結果の改善状況報告について

○井上委員長

では、つづいて、議事(2)の平成27年度行政評価外部評価結果の改善状況報告について、事務局からご説明いただきたい。

【事務局から議事(2)を説明】

資料2 平成27年度行政評価外部評価結果の改善状況報告について

○井上委員長

残念ながら改善に至らない部分もあったが、理由があつて至らないということであるため、今後、担当部局からどのようにさらなる改善が図られるか、検討をいただけたと思う。

改善された事務事業評価表を見ていただくと、「事業を取り巻く環境変化」も非常に細かく丁寧に記載がされている。これが継続されることが、委員会から改善点を指摘した効果であり、また、これからも行政職員が力を発揮して事業の見直しを随時図りながら、良い政策

を遂行していただきたい。今回の改善状況報告と同様に、次年度も改善を進めていただきたい。

それでは、昨年度の指摘事項に対する改善状況については、概ね改善が図られているということであるが、各委員からご意見があれば発言いただきたい。

○中井委員

「白樺・若草保育園統合建設整備事業」の評価表について、昨年度の担当課評価（５）「効率性」の「入札により建設業者等を決定するためコスト削減余地はない」という記載について委員会から改善を求める指摘をしたわけであるが、今年度の評価表を見ても改善されているとは読み取れない。結局は、請負工事を入札していることからコストの削減余地はないという記載となっているが、これは間違えた認識だと指摘したはずである。個人的にこの記載については理解できないし納得ができない。

○井上委員長

中井委員のご意見について、指摘した内容については27年度の内容であり、今回の改善した評価表では、28年度の状況を記載した上でコストの削減の余地はなしとされている。

○中井委員

市民の立場からすると、この記載では行政がコスト削減の取組を何もしないとしか理解できない。昨年度もそのような趣旨にて指摘を出している。

○井上委員長

確かにこの項目については、「入札だから」では説明が不十分である、として委員会から市民に分かりやすい説明とするよう意見出している。

○中井委員

委員会側からの意見に対して、先ほどの「事業を取り巻く環境変化」について空欄として同じではないか。委員会の言っていることについて、検討する余地はないという回答と読み取れる。

市民として税金を払っている立場からして、コスト削減をする余地がないとしていることが理解できない。委員会の意見をすべて取り入れろということではないが、少なくとも検討の上で判断したなら分かるが、少なくとも真面目に検討していただきたい。

○小野寺委員

中井委員の質問の意図がよく分からないが、ここは請け負った業者に値引きをさせる取組をしたかを聞いているのか。

○中井委員

そうではない。

工事費を算定基準に基づいたから削減余地がないという言い方が理解できない。本来、その中でもできる余地があるはずである。決して、請負業者に値引きさせろと言っているわけではない。

請負業者に策定したとおりに請け負わせるのであれば、あらかじめ発注する際、設計段階にてできることがあるはずである。

○事務局

中井委員のご意見のとおり、設計を工夫することによってコスト削減余地は生まれるかと考えるが、この事業において、平成27年度については設計がされておらず、すでに前年度までに決めた内容に基づき、行政の規則どおり発注するという段階であれば、この時点でのコスト削減を論じることは難しい。

設計の段階であれば、中井委員のご意見のとおり、コスト削減の取組を進めることは可能と考えられる。

○井上委員長

入札の前段階のことである。

それであれば、既に前年度に終えた内容を当該年度に記載することは難しい。

○事務局

市としても、これから設計するという段階であれば、当然工夫の余地がある。

○井上委員長

今の説明の状況からすると、市民感覚で「削減の余地はない」と記載されて断定されたとしても、コスト削減余地はあるように感じ取れる。

言葉の揚げ足取りをしてはいけませんが、表現方法が妥当か否かは非常に難しい。

○事務局

記載については、行政の発する文書として一般市民の方から見ても誤解を受けないような表現に留意したい。

○井上委員長

これはもし記載できるのであれば、予算やその前段階のことも書き込むということになるのか。そこまでは内部評価では必要ないと思われる。

○事務局

27年度の事業に対して、昨年度の取組に対して書くということになる。

○井上委員長

疑問に思う気持ちも分かるし、この評価表の記載欄にどのように書き込むかとなれば、過去の経過から含めて表現することは非常に難しいと思う。

この事業のような案件であれば、別の委員会、もしくは議会にて入札の設計、発注する予算などについて質疑応答がされているのではないかと個人的には思う。

事務局に確認であるが、これについてはいかがか。

○事務局

当然、このような事業、この場合は保育園の建設事業であるが、施設の建設にあたって、当然市民の皆さんの意見を聞いて議会に報告し、承認を得て建設工事に着手することになる。

そういった意味でいえば、数々のチェックの場面を経て、事業が実施されている。

○中井委員

いきなりコスト削減の余地がないとされることは、検討がされたということも含めて出されなければおかしいと感じる。検討結果も入札によるものだから余地がない、過去の経過は

何もなくて設計基準どおり工事を発注したのだから余地がない、ということでは市民としては理解ができない。

○井上委員長

ただ、27年度の評価結果について、この1年間で経費を削減するという事は工事の進捗から可能なのか。現段階から予算よりも削減できたということは難しいのではないか。

請負事業として、この建設予算で発注するといった段階にあることを踏まえると、コストを削減できるのはその前段階ではないか。

○中井委員

まず、現実の工事としては、工事設計価格よりも高く受注はできないはずである。

そのため、既に検討されているはずである。その過去の経過もすべて否定して発注しているのだからコスト削減の余地はない。きちんと検討した経過を書くべきである。

○井上委員長

それであれば、ここの記載内容の中に「国が示す基準に従って工事の予定価格を算定し、市としてきめ細やかな精査を行った」と加えることで無駄のない設計になる。このような経緯にて入札により建設業者が決定をしたため削減の余地がない、ということになれば妥当と言えるだろうか。

○中井委員

何も検討しないで設計基準通りに発注できたから、削減の余地はないという表現ではなくなる。

○井上委員長

それであれば、市が具体的に実施していることをもう少し丁寧に記載することで、コスト削減余地がないということであれば、理解ができるということによろしいか。

○中井委員

はい。

○井上委員長

それであれば、これは意見として担当課へ伝えていただきたい。

全体を通じて、委員会から指摘した事項については、改善が図られているということで理解をしたいがよろしいか。

【各委員、了】

それでは、平成27年行政評価外部評価結果の改善状況報告については、終了する。

(3) その他

○井上委員長

各委員から何かあれば発言いただきたい。

【各委員意見なし】

3 その他

○井上委員長

次第3その他について、事務局から何かあれば説明いただきたい。

【事務連絡】

- ・平成28年度行政評価外部評価結果の修正後の内容を各委員へ送付する
- ・11月14日（月）に委員長、副委員長から市長へ外部評価結果を手交

【三上企画政策部次長からの挨拶】

○井上委員長

それでは、平成28年度最後の委員会となるが、委員の皆さんから何かご意見があれば発言願いたい。

【各委員意見なし】

4 閉会